

財団法人 日本中国国際教育交流協会

会報

平成19年(2007)10.25

(財)日本中国国際教育交流協会

Tel:03-3222-4190 Fax:03-3222-4199

Email:ajciee@rythm.ocn.ne.jp

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-3-9 第2太陽ビル301

宋慶齡基金会と日本中国国際教育交流協会が 教育支援協定書を締結

教育支援交流で新たな第一歩



中央左・生井理事長、中央右・胡啓立主席

7月13日、(財)日本中国国際教育交流協会代表团(生井理事長、山中・黒田常務理事、初岡理事)は、北京の宋慶齡基金会本部を訪れ、胡啓立主席と懇談し、共同プロジェクトの意思を確認しあいました。団は、翌日基金会と共に河北省易県の銀河小学校、渭水小学校を訪問し、学校設備や地域の状況を視察しました。

その後、宋慶齡基金会との話し合いの結果、本年度は、750脚の机・椅子を送ることで合意し、以下のような確認書を取り交わし、中国教育支援の第一歩を踏み出しました。続いて、ヤマハ楽器の協力を得て、音楽教材の支援も決定し、選定に入っています。

河北省易県の児童・生徒に対する
教育支援に関する協定書

前文

日中国交正常化35周年を記念して、日本中国国際教育交流協会と中國宋慶齡基金会は、日中両国、アジア、そして世界全体の子どもたちの幸せとすべての子どもにとって教育の機会を高める目的のために、今後お互いの共通する活動分野のなかで協力していくことで合意した。こうした目的を達成

するために、下記の協定を締結する。

記

第1条(目的及び用途)

- 1 財団法人日本中国国際教育交流協会は、中国河北省易県の児童・生徒に教育支援を行うために、中國宋慶齡基金会を通して、教育向上と環境整備のための支援を行う。
- 2 河北省易県の小・中学校での机・椅子などの学校備品の老朽化に対し、よりよい教育環境を保障するために、以下のような協力を行う。次年度以降については、両者の協議と合意に基づいて行う。

第2条(送金及び報告)

- 1 2007年度においては、財団法人日本中国国際教育交流協会は、河北省易県の小・中学校での机・椅子などの学校備品の老朽化に対し、中國宋慶齡基金会を通して、机・椅子750セット(約120万円)を支援する。
- 2 財団法人日本中国国際教育交流協会は、2007年10月30日前に、机と椅子750セットを購入する寄附金120万円を中國宋慶齡基金会に送金する。中國宋慶齡基金会は、これを受領後、易県文体教育局に送金し、この寄付金で机と椅子を750セット作って該当校に送ることを監督する。
- 3 中國宋慶齡基金会は、合意された日時までに、完了報告(具体的実施内容を含む)を財団法人日本中国国際教育交流協会に行なう。

以上

(以下署名)



易県の教室の様子

▼国際教育交流活動に対して助成金▼

協会では、財団設立15周年を記念して、教職員の行っている教育国際交流についての助成について、二回にわたり、初岡昌一郎審査委員長以下委員5名が検討し、下記の3件に奨励賞を贈ることに決定しました。報告書に応募されたのは、群馬県教職員組合、千葉県教職員組合、山梨県教職員組合、東京都立学校教職員組合、神奈川県教職員組合、静岡県教職員組合、福井県教職員組合、富山県教職員組合、三重県教職員組合、愛知県教職員組合の9県で、各5万円の助成金が贈られました。

また、次の3件には奨励金10万円が送られました。

- 「民族教育を考える日の集い」(群馬県教職員組合)
- 第3回子どもによる日中教育交流団(神奈川県・三浦半島地区教育文化研究所)
- 韓日高校生交流事業(三重国際交流財団、県立昂高校、津商業高校)

応募していただいた各県の皆様ありがとうございました。

第一期安東自由大学を開催

教育・文化・歴史で収穫多々！

9月5日から11日まで協会派遣、第一期安東自由大学参加団は韓国安東市、ソウルを訪問し、今までの教育交流に加えて、文化歴史の研修学習を深めました。6日から9日は、安東自由大学に参加し、全員無事、修了証書を授与されました。



安東自由大学が開催された国学文化会館（安東市）

安東自由大学は日韓の有識者によって昨年提唱され、韓国安東で韓国の歴史を学び、草の根交流を進めるため、今年初めて開催されました。協会はこの提起に積極的に賛同し、準備・運営に大きく寄与しました。

安東自由大学はまた、東アジア全体を通じて教育や文化の面で知的交流を発展させることを企図しています。同時に参加する人々の自由な対話と交流の場でもあり、この面からも、教養文化部に参加された諸先輩や学識経験者、他職種の仲間たちとの交流は今までにない新鮮な、視野を広げた体験をもたらしてくれました。

第一日目は、安東市長を始め、安東大学総長他の方々からの祝辞をいただき、安東の歴史と今を、安東在住の韓国人、日本人からレクチャーを受けました。続いて国学振興院の金美榮研究員から、韓国の両班（ヤンバン）についての講義を受けました。その後、国際シンポジウムを行い、日本・韓国・中国からのパネラーが『東アジア市民社会の可能性』について論議を行いました。討論では、加藤神奈川県教組委員長から、日本韓国中国の歴史認識の違いをどう超えていくのが貴重な提起がされました。

第二日目は教育学部学校訪問、教養文化部は文化的交流プログラムに参加しました。

最終日は、安東訪問のハイライトである、陶山書院、河回村、民俗博物館などを参観しました。河回村では、仮面劇の講演も参観しました。3日目の宿泊は、烏川君子里で、両班（ヤンバン）の風情が色濃く残っている所です。貴重な民俗体験と夜更けまでの人的交流を行いました。



シンポジウムで加藤神奈川委員長 最終日宿泊の烏川君子里歴史村

第二日目、安東自由大学は教育学部と、教養文化学部の二つに分かれ、教育学部では、共通課程のほかに、安東市小・中学校の訪問を行いました。安東市西部初等学校では、静岡県生徒との作品交流も行いました。

参加者は、IT技術が教室の隅々にまで行き渡っていることや、教員関係の施設や給食設備の充実、栄養職員の全校配置に向け進行しているなどの貴重な情報を得ることができました。今回訪問した学校は普通校で特段の重点校ではありませんでしたが、それでも教育にお金をかけているという点では、日本を上回っているように感じました。

安東中学校は、しいて言えばサッカーの強い普通中学校ですが、男子校でした。ソウルなどの大都会と違い、安東では中学校では男女別学が多いとのことで、一堂の関心もそこへ集まりました。（11月発行の会報14号『安東自由大学特集』をご覧ください。）



父母も支援に参加（小2年） 鈴木静岡副委員長と西部小学校長

閉講式には、安東市長も再び挨拶に訪れ、お別れパーティーまで参加し、参加者一人ひとりに安東焼酎を振舞いました。この企画が、安東市の多大な支援によって成功したことを物語るものでした。また全て日本語で運営するために、ソウルからボランティアの日本語通訳が駆けつけました。多方面から今後の継続への期待が高まっています。



閉講式で修了証書を受ける参加者たち



権重東名誉総長（元労働長官）の直筆で氏名が記されている